

**令和元年 新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会**  
**柏崎刈羽原子力発電所 視察概要**

**1 出席者**

小山 幸司	三菱重工業株式会社パワードメイン原子力事業部機器設計部部長代理
鈴木 雅秀	長岡技術科学大学大学院原子力システム安全工学専攻特任教授
鈴木 元衛	元日本原子力研究開発機構安全研究センター研究主幹
立石 雅昭	新潟大学名誉教授
田中 三彦	科学ジャーナリスト
田村 良一	新潟工科大学工学科建築・都市環境学系教授
中島 健	京都大学複合原子力科学研究所副所長
山内 康英	多摩大学情報社会学研究所教授

**2 日 時**

令和元年 9月 6日(金) 10:30~15:45

**3 場 所**

東京電力HD(株)柏崎刈羽原子力発電所

**4 視察内容**

福島事故を受けて新たに整備した安全対策設備について概要説明を受け、現地視察を行った。

※現地視察箇所は、資料 No. 2 を参照

**5 座長所感**

まずは、本日はお忙しい中、我々委員のために丁寧な対応をしていただきまして、委員を代表し御礼申し上げます。ありがとうございました。

本日、いろいろと見せていただきまして、従来からあるものと、新たに設置したものの、私はこの委員会とは別にも見せていただいておりますが、着実に進捗しているということは感じているところでございます。福島第一原発はどうだったのかという議論もあって、技術委員会で検証しておりますが、今日見せていただいたことが、今後の議論に反映できるのではないかと考えております。

一番大事なものは、福島第一原発事故の教訓を柏崎刈羽原発の安全性にどう反映するか、我々がそれをどう判断するかということだと思いますけれども、それは今後の議論の中でやっていきたいと思っております。

今日の説明の中でも、東京電力ホールディングスの方からもお話がありましたが、いろいろなハードを整備しておりますけれども、やはり最後の安全の砦というのは人がやらなければいけない。特に、アクシデントマネジメントというか、想定外の対応ということになると、人がホースを繋いだり、操作をするといったことが出てきて、今日の田中委員の質問にもありましたけれども、そこをきちんと東京電力ホールディングスとして、今は多分大丈夫だと思うのですけれども、これから長きにわたって原子力をやっていく間は、しっかりと人を育てる、次の世代も育てていくと。

事故が起きた後、10年近く経っていますが、我々はまだ生々しい体験を持っていますけれども、今から入ってくる新しい人たちというのは、そういうことも知らない。場合によっては教科書で歴史として習っているような人たちがこれから入ってくるかと思います。そういう人たちもきちんと、今、我々が持っているのと同じような危機意識といいますか、安全の意識を持った人になるように、しっかりと教育、人材育成をしていただきたいと思います。

技術委員会の今後は、これから事務局とも相談させていただきますけれども、今日受けた説明も、今後の委員会の中で反映させていただいて、よりよい議論をしていきたいと思っておりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。ありがとうございました。